



大連市農業の概況

大連市は日本では工業都市のイメージが強いが、大連市総面積約1万2千km²のうち耕地面積は23.43万^{ヘクタール}、人口約600万人のうち農村人口は263万人を占め、農業従事者も多い。主要な生産量は、穀物100万t、果物79万t、野菜221万tであるが、耕地面積・農村人口とも減少傾向にある。大連市では「大連市農業現代化発展概要」を制定し、農業経済を発展させ農民の増収を図るために特に経済作物(果物・花卉・野菜等)の発展に力を入れている。果物は品質化・規模化を図り(優良種リンゴ栽培面積は6680^{ヘクタール}で前年比8倍)、花卉栽培面積は2000^{ヘクタール}、年切花生産量は1.63億本、花卉苗・球根は1.5億株である。また、日本等からの外資導入を図り、3.53億^{ドル}の外資利用成果をあげている。さらに、無公害・自然食品や有機食品の発展を図り、生産量は145万tに達している(数値はいずれも03年度末)。

第三回遼寧国際農産品交易会・大連農業現代化成果展覧会

「三農問題」が提起されている現在、10月13日～16日に星海会展中心で遼寧省・大連市政府主催により開催された第三回遼寧国際農産品交易会・大連農業現代化成果展覧会では、特に力を入れた取組がなされた。開幕式には農業部副部長、副省長、大連市長等が出席し、初日は5000人余のビジネス客が来場する等、盛況であった。農産品・水産品や関連技術に関して遼寧省各市や大連市各地区の他、世界7ヶ国・地区からの出展があり、日本からは、醤油や昆布・ワカメ、魚介類加工食品、青森リンゴ、ホタテ養殖器材、米作器材・農園経営の会社の他、岩手県(日本酒・加工米・リンゴ・水産物缶詰)等の出展があった。

会場では、大連市農業・水産業の2000

年から5年間の発展の成果が展示された。一人当たり農民純収入は3740元から5903元に、輸出は4.3億から12.5億^{ドル}(うち、水産関係は8.6億^{ドル}、全国の11%)に増加している。また、農業技術の生産技術向上の取組として、日本の梨・サクランボを始めとした各国からの果物・家畜・水産物の新品種の導入、花卉栽培、野菜の水耕栽培技術等が展示された。

中国は現在、農業・水産業や食品加工、関連技術の発展に力を入れており、経済交流を促進している。日本からの農産物・水産物販売促進や食品加工等の関連産業の進出のためにも、今後、この交易会に出展する等の取組も一つの選択肢であると考えられる。

大連での日本の果物販売 伊万里梨の例

大連マイカル(96年設立の百貨店。当初は日本との合弁、その後中国側資本)の地下食品売り場では、9月26日～10月4日に伊万里梨「新高」の販売が実施された。販売価格は35元/500g、梨一個当たりの重量が1kg近くあり、1個60元～70円で専用の箱付で販売されている。1日の販売数は30～40個程度である。価格は中国産の梨の10倍程度であり、主として中秋節の贈答品となると考えられる(中国は中秋節前に月餅を贈る習慣があり、1箱100元台～200元台が主流。他の物を贈る場合もある)。また、市内では青森産のリンゴが販売されたことがあり、「メトロ」(ドイツ系スーパー)には、少量ながら外国産の果物が販売されている。市内の5星ホテルの営業担当者に日本の果物使用の可能性について聞いたところ、価格差がありすぎ、ホテルでの食材としての使用は困難であるとのことであった。

<参考:市内で販売される中国産の梨の値段>
 ・新マート(百貨店).....2.5元～4.0元/500g
 豊水(大連産)は2.5元/500g
 ・市内の市場.....1.5元～2.5元/500g
 豊水は1.3元～2.0元/500g

大連市農業の発展と経済交流

富山県大連事務所長 倉嶋 清吾